

Bike is Good!

～自転車遊び利用促進実証実験2008企画全体案～

『メニュー3点セット』

ツーリングコンペティションの再提案

はじめに
ツーリングコンペティション
メニュー・その1 (ロード向け)
メニュー・その2 (MTB向け)
メニュー・その3 (小径車向け)
2008展開スケジュール案
ご協力のお願い
(メンバー紹介)

自転車遊び総合研究会(転遊研)

2007年11月24日(起稿)

(2008年2月8日第一稿)

自転車遊び研究所

**COURSE
CREATE**

Open-road, Closed-circuit,
School, Media, Academy

〒740-0036

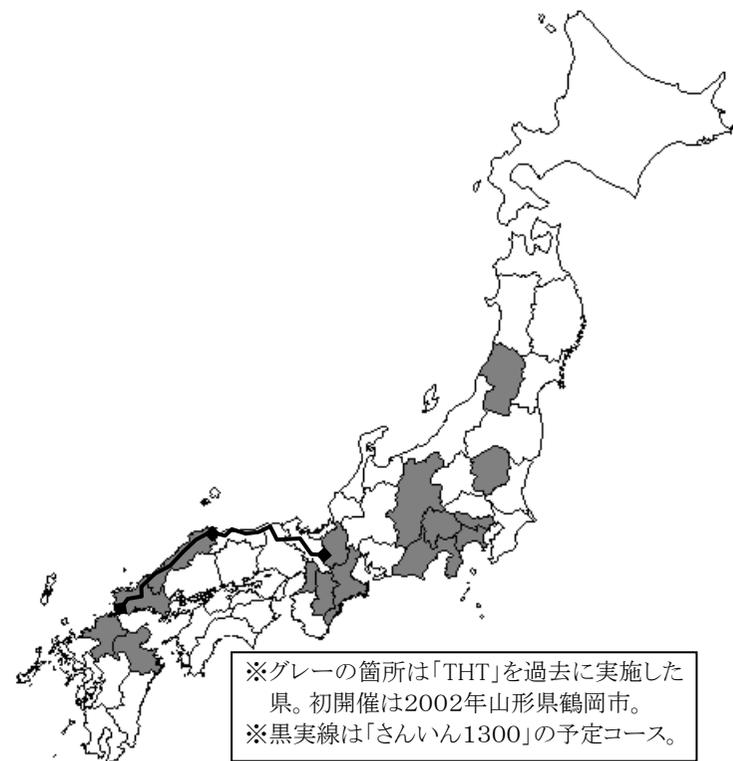
山口県岩国市藤生町1-30-6

TEL 090-3170-6658

InterFAX 03-6368-4661

E-mail Coursecreate@aol.com

URL <http://www.bike-joy.com>



※グレーの箇所は「THT」を過去に実施した
県。初開催は2002年山形県鶴岡市。
※黒実線は「さんいん1300」の予定コース。

はじめに

「Bike is Good!」、自転車の良さが再認識されています。
しかし、乗る環境や、楽しむソフトが充実していると言えない状況もあります。

その中、日本の風土に合ったみんなで楽しめる自転車遊びを探りつつ、
自転車でも安心して走れる場所を増やすことを目的とした「実験企画」を2005年春より進めています。

「環境」や「健康」と言った自転車の二次的効果に期待の集まるここ数年の平成の自転車ブームでは、自転車自体もスタイリッシュにそして多様化し、
良い意味で、個人の好みで選べる雑貨感覚の身近な「道具」に、自転車は進化しています。

そのような、二次的効果への注目度の高まりから自転車イベントが増える傾向の見受けられるこのブームですが、
メーカー、イベント、行政、ショップなどの関係者と話しをしたところ、これまでに無い雰囲気を感じています。
それは、過剰な注目を受け、多様化への対応を迫られている、関係者の戸惑いです。

「雑貨」には「使い捨て」の側面もあり、また歩道走行問題に端を発した自転車の在り方の見直しで
「歩行者に近い使い方」「自動車に近い使い方」と言う二面性がクローズアップされ、
「自転車に市民権を！」に限りなく近い、地位向上を図る絶好のチャンスと、多くの人が感じているからではないでしょうか？

この「実験企画」では、自転車遊びは下記の五つの要素に分解できると考え、
日本の“特徴”を再分析し、進化や変化する日本の“実情”に合った自転車遊びを模索する「実証実験」を繰り返しています。

「ツーリング」……一般道（オープンロード）を走ること。即ち旅。“道で遊ぶ”ではなく、“道を遊ぶ”。
「レース」……日本には公道レースは在り得ない。全ては特別許可のサーキットレース。（警察見解）
「スクール」……自転車遊びは自己責任。道路交通法だけでなく、遊びのノウハウを伝授。誰もが先生だ。
「イベントカレンダー」……自転車は独りでも遊べる。でもコミュニケーションツールでもある。PRが大切。
「ネットワーク」……情報の共有。人材育成。表彰制度。クラブ&ショップのネットワーク。アカデミー活動だ。

過去の自転車ブームで日本の特徴が分析されたかは定かではありませんが、良好な結果が得られたと言えないのも事実です。
また、進化や変化する“実情”に合わせるのも重要ですが、“未来”に残る遊びを創造するのも楽しいものです。

当実験企画も失敗企画があったものの、突然変異的に“わらしべ企画”も生まれ、予備実験をクリアした感もあり、
全国一斉開催を目指した実用実験へ向け、右の地図を埋めたいと歩を進めています。



ツーリングコンペティション

この言葉は、フランス人オーガナイザーによるMTBラリーレイド、「エジプト30王朝ラリー」や「コルシカバイク」のプレスリリースにあった「アドベンチャーコンペティション」や、4年毎に開催される世界最高峰のブルベ、「パリ～プレスト～パリ・ランドヌール」に初参加した日本人のレポートに書かれていた「ランドナーコンペティション」をヒントに、ツーリングとレースの両方の性格を持つ自転車遊びを指す広義のものとして創ったものです。

日本では「サイクルツーリング」はJCA、「サイクルレーシング」はJCFの管轄になっていますが、境目は曖昧で、一般公道での個人タイムトライアルが目安になっているとの考えもあります。

その個人タイムトライアルの日本での極みを言うなら、日本縦断2700km耐久ランがあります。私自身もそれに挑戦し、気分はツールドフランスでしたが、内容はツーリストによるファストラントーリングでした。

またツーリングに地図は欠かせません。ドライブマップでサイクリングに出かけ、分岐で迷った経験はありませんか？ 縮尺や表記の違い、さらに現地の変化など、地図読みの苦い思い出もひとつの楽しみです。その延長と言うには無理がありますが、コース設定やエピソードを審査する「サイクル・キャンプ・コンペティション(トライCカップ)」という企画を1980年代後半に仕掛けたこともあります。

では何故この造語が必要だったのでしょうか？ それは、日本版MTBラリーレイド「とれとればいく」を立ち上げた当初、フランスのように自治体等の理解を得た運営を目指し、林道や自然公園の管理者、山林の持ち主に通過の了承をもらい、資料を揃えて所轄の警察に行ったところ、「MTBラリーレイド」という言葉がNGとされました。警察で「ラリー」は、「JAF国内ラリー競技」を指すもので、混同を懸念した見解でした。

メニュー3点セット ≡ ツーリングコンペティションの再提案

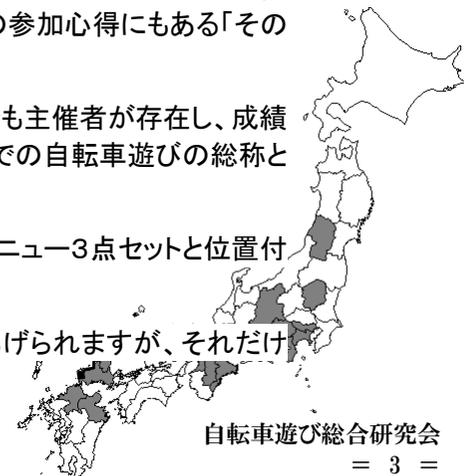
2005年春の「100×100」は、サイクリングの原点、100km走破に着目したものでしたが、準備不足もありマイナーチェンジで補おうとしたもののあえなく失速。その過程で、突然変異的に生まれたのが「THT26・地図あそび◆自転車さんぽ」です。そしてどちらも募集要項や誓約書には「個人の責任で走るサイクリングゲーム」とジャンル分けしてあります。

「ツーリングコンペティション」は、とれとればいくではコルシカバイク経験者も居て受け入れられましたが、ブルベでは一般道走行の色が濃いため拒否反応を示されました。しかしここに来て保険の保障項目にサイクルオリエンテーリングが加わったように、自転車さんぽの参加心得にもある「その場での判断は全て個人の責任で対処するのがツーリング」という自転車遊びの大前提が社会的に認知されつつあります。

これは画期的なことです。何故なら、サイクルオリエンテーリングは独り遊びのプライベートツーリングとは異なり、少なくとも主催者が存在し、成績の出るゲームです。故に、個人タイムトライアルからサイクルオリエンテーリングまで、何らかの成績の出るオープンロードでの自転車遊びの総称として、改めて『ツーリングコンペティション』を提唱します。

そしてこの実験企画では、ロード向けの『100×100』、MTB向けの『とれとればいく』、小径車向けの『自転車さんぽ』をメニュー3点セットと位置付け、全国一斉同時開催の各地の核となる運営チームを作ること、関係者に呼び掛けたいと考えています。

メニュー3点セットを選んだ理由のひとつに、コース探しの目線が、街道、シングルトラック、そして路地と変化することがあげられますが、それだけではありませんし、自転車の多面性は問題点と可能性を孕んでいて、自転車遊びへの興味は尽きません。



メニュー・その1(ロード向け)

ルート・エヌ＝日本生まれのブルベ

「100×100」「自転車百みち」「さんいん1300」

「ブルベ」とは「認定」という意味のフランス語で、規定の距離を規定の速度で走破するファストラーツーリングの実力認定システムの総称で、欧米を中心に世界中で楽しまれています。

日本では、1995年秋に故今井彬彦ニューサイクリング編集長のアドバイスで始まった「ルート・エヌ」が「ブルベ」と名乗った最初と思われます。その後、世界最高峰のブルベ、「パリ～プレスト～パリ」へ参加のための国内組織も整備されています。また、ブルベには「ディアゴナール」や「ナショナルブルベ」など様々な形式があり、それらをアレンジすれば、フランスで見たイベントカレンダーの殆どがブルベだったように、もっとポピュラーにできるはずです。

■ 100×100・・・【サイクリングの原点、100kmを100回走ったことありますか？】

この実験企画の最初の企画で、某プロショップ店長の助言を受け、イベントとは異なる、いつでもどこでもできるツーリングコースの充実を目指したものでした。しかし、100kmの100コース設定に無理がある点を多くの人に指摘され、また身近なコースの必要性にも疑問の声があり、企画倒れとなっています。それでもこのアイデアは秀逸であり、修正を加えれば、劇的に変化する可能性を秘めています。

■ 自転車百みち・・・【“みち”を遊ぶデータベース、“色々”の“みち”教えます】

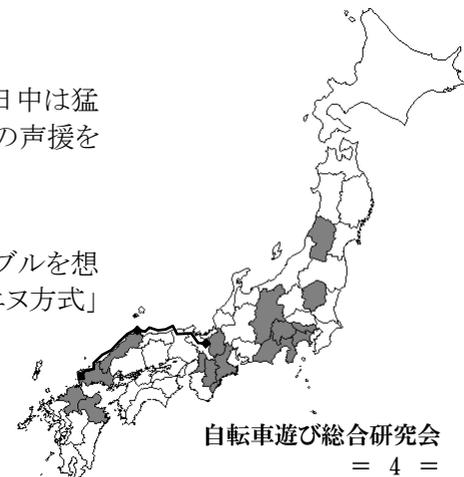
「100km100コース」を「百名道走破」に変えてはどうでしょう？「名水百選」「道路百選」「音風景百選」等の公的に選定されたものや、オートバイツーリングや路地裏探訪などの個人レベルの写真集もあり、そのうち自転車版も出現するでしょう。しかし“道”は変化していますし、選定基準も多岐に渡り、簡単な作業ではありません。言えるのは、「休みを取ってでも出かけた、海外ツーリストにも紹介できる道」ではないでしょうか。“みち”は「道」以外に「路」「途」「未知」とも書きます。また国道や県道、幅員などで道路地図の色や表記が違います。自転車好みの“みち”の色々を集める「自転車遊び総合研究会・自転車みち調査班」を結成したいところです。

■ さんいん1300・・・【“旅心”を加えたフラッグシップイベント】

「京都～松江～下関」往復1300km、12kphで走破しませんか！？ 実施時期はお盆が第一候補で、日中は猛暑も予想されるので、ナイトランは必至です。でも海岸線の漁り火やサンセットを見ながら、そして花火客の声援を受けての走行は、きっと夏の風物詩になるでしょう！

● ツーリングコンペティション的運営・・・【ルート・エヌ方式】

「イベントサイクリスト」の増加が問題になっています。「旅」は“道を遊ぶ”もので、そこに潜む危険やトラブルを想定したセルフレスキューはサイクリストの大前提です。そのため、コンビニチェックに代表される「ルート・エヌ方式」の運営(セルフチェック)で、通過地点を証明し、走行データを報告して、完走認定を受けましょう。



メニュー・その2(MTB向け)

MTBラリーレイド

「ツーリングエンデューロ」「とれとれミニ&スクール」

「MTBラリーレイド」は、「困難との遭遇」とも言われ、自転遊びの中で最もエキサイティングで、参加者はラリーストと位置付けられ、そのスキルを総合的に試されるものです。

世界的に見ると「ラリーレイド」はモータースポーツが本家で、ダカール・ラリー(通称パリ・ダカ)はあまりにも有名です。また近年、アドベンチャーレースとしてマルチラリーレイドが盛んに行われ、その中のアイテムにMTBは当然含まれています。しかしMTB単体のラリーレイドは、競技組織に取り入れられる動きもありましたが、現在ではマラソンのクロスカントリーや観光ラリーに分化していて、日本国内では「とれとればいく」が独自の発展をしています。

■ ツーリングエンデューロ・・・【オールマウンテンで楽しめる日本版マラソンのクロスカントリー】

まだアイデア段階に等しい企画ですが、某MTBイベントの新メニューとして導入されたもので、スペシャルステージ(SS)とリエゾンの組み合わせはMTBラリーレイドに他なりません。特徴として、「ショートSS+ロングリエゾン=仲間はライバルだけど一緒に楽しめる不思議なツーリング」となります。熟成実験イベントを計画中です。

■ とれとれミニ&スクール・・・【とれとればいく入門大会、地図読みとMTB捌きのスキルアップスクール】

MTB遊びの満足度は距離ではなく時間であるという法則と、山道の法則、自転車運びの法則など、日本の里山をMTBで遊ぶための要素が凝縮しています。遠征参加して狭いエリアを半日走るだけで、2日分の満足を得られるため、実験企画として再提案を考えています。

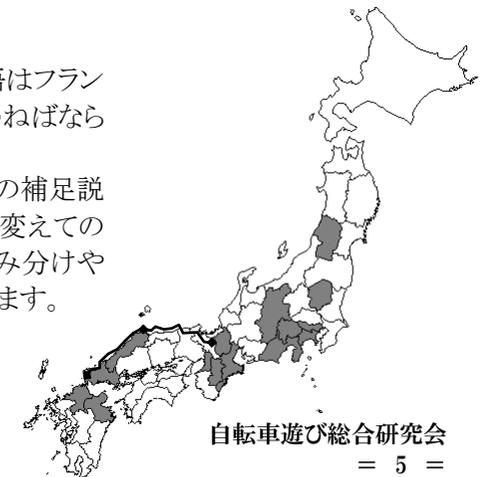
※ とれとればいく・・・【地図を読み山道を迎える日本版MTBラリーレイド、ナビゲーションスキルは世界一！】

とれとればいく運営委員会が、「シリーズ戦」「とれとれミニ」「レイド・オブシディアン」などのスキル別の大会を10月から翌年5月をシーズンとして各地で計30回程度実施しています。その中の幾つかを担当しています。

● ツーリングコンペティション的運営・・・【ジェントル&シビア、リバースポジション】

「とれとればいく」は「コルシカバイク」を習って始めたもので、デパール、アリベ、PC、ELなど、主な用語はフランス語です。そのため運営もかなりアバウトですが、参加者はラリーストとして何事にも己の力で立ち向かわねばならず、主催者への協力を求められ、同時に主催者を批判することは許されていません。

先達であるコースクリエイターによる上選の道を、当日渡された2万5千分の1地形図とブリーフィングでの補足説明を頼りに探し、そして辿り、より先の関門に到達した人を称えるものです。シンプルで緩やかで立場を変えての運営、高い意識の参加者など、理想的に継続されていますが、後進の育成やトレイルメンテナンス(棲み分けや道普請)が課題です。また特異な現象として、目線が変わり、それまで見えなかった道が見えるようになります。



サイクルオリエンテーリング

「THT26地図あそび♦♦自転車さんぽ」「もえぎ&モミジのラリーデイ」「THT Demo」

「サイクルオリエンテーリング」は、地図読み遊びとサイクリングの合体ですが、サイクリングにはもともと地図は欠かせないもので、その立場からすると、地図読みの勉強に役に立つ遊びという感覚なのは否めません。

この実験企画を始めた2005年、まだ輪郭のハッキリしていない「トレジャー・ハント・ツーリング」を「古くて新しい自転車マップリーディング」と紹介していました。その後、色々な人からの突っ込みを頂戴しながら、現在の形になっていますが、参加者の傾向や今後の方向性を考えると、スポーツサイクリングより自転車を使ったレクリエーションとして紹介する方が良さそうです。

■THT26地図あそび♦♦自転車さんぽ…【突然変異のわらしべ企画】

「THT」はトレジャー・ハント・ツーリングの略で、「26」はアルファベット26文字を指していて、「♦♦」は「THT」をデザイン化したものです。原点はロングライドイベントの代案を求められ考案した2002年の鶴岡市の大会で、4年間構想を暖めた後、シマノ鈴鹿ロードや東京国際自転車展でジョイントする機会を得て、突然変異的に進化しました。さらに単独の実験大会や4会場同日実施のプレ大会を経て現在の形に落ち着いています。

■もえぎ&モミジのラリーデイ…【共同告知&全国集計】

イベント開催のネックのひとつが「告知」です。一方、THT26は記号集計なので、会場を越えた比較が可能で、「共同告知&全国集計」という単純発想が生まれました。また、日本にはサイクリングに適した季節が2度あり、それに合わせた集中実施も当然でした。さらに「散歩」つながりで、スポンサーも現れました。

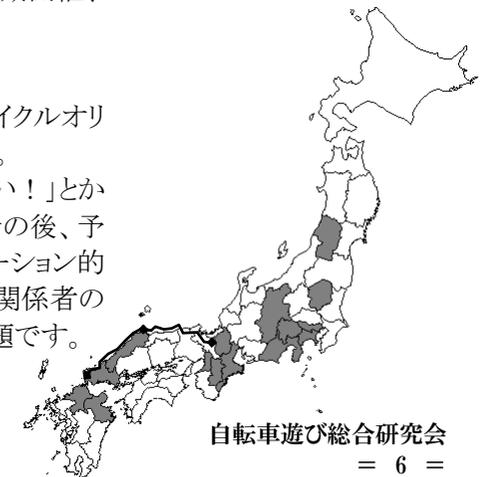
■THT Demo…【応用実験】

大会のサブメニューとしてターゲットを拡げたり、レンタサイクルとのジョイントや、ショップ企画としての定期開催、さらに雑誌読者を対象にした立体企画など、成功例も失敗例も多々あります。

●ツーリングコンペティション的運営…【マニアの突っ込み、一般の突っ込み、関係者の突っ込み】

基本ルールは、エリア内26箇所のTPから8箇所以上を巡り、最少訪問者TPを当てる逆転の発想のサイクルオリエンテーリングです。偶然性が優先されるため、年齢性別車種不問で家族的にも冒険的にも楽しめます。

2006年の最初の集中実施までに、マニアから「集計複雑!」とか、一般から「パンク修理キット持ってない!」とかの突っ込みがあり、また運営希望者から「まちのお宝みい一つけた!」というコピーが提案されました。その後、予想外のオファーや延べ41会場の実績を上げる中、主催者も一緒に走れることを発見しました。レクリエーション的に楽しめることも証明され、地元密着の行事として、警察からの「交通マナーをTP問題に!」のような、関係者の垣根を越えた新たな突っ込みもあります。残るは運営チームの増殖と自転車界全体のバックアップが課題です。



ご協力をお願い

「Bike is Good!」をキャッチフレーズに、日本の風土にあったみんなで楽しめる自転車遊びを探りつつ、自転車でも安心して走れる場所を増やすことを目的として、2005年より実証実験を重ねて来ました。当初、2008年より本格実施をと考えていましたが、会の名称から「仮称」は取れたものの、予備実験から実用実験に移行した程度の成果です。

しかしその成果は、年齢性別車種不問で家族的にも冒険的にも楽しめる「THT26地図あそび♦♦自転車さんぽ」が生まれたことであり、目的前半部分の「みんなで楽しめる自転車遊びを探る」に相当すると思われず。

つまり、本格実施をするには、目的後半部分の「走れる場所を増やす」を埋めることが必要条件であり、そのため2008年は、各地の核になって頂ける協力者を探すことが重点目標になります。

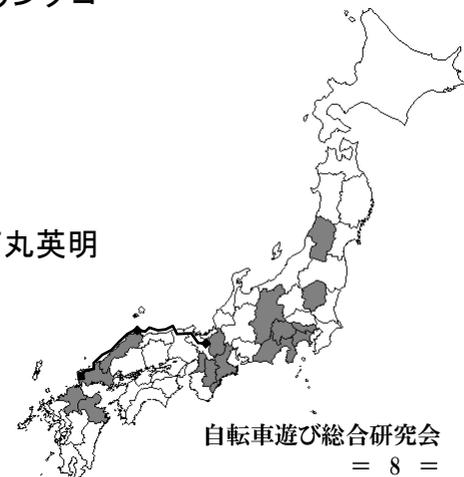
今回、再提案のツーリングコンペティションは、要約すると、コース設定をして地図等を渡し、スタート&フィニッシュと最低限の通過コントロールで運営できる自転車遊びであり、成績を出すことで見えないライバルを意識した共通体験でコミュニケーションが取れるという特徴を持っています。

そしてツーリングコンペティション・メニュー3点セットは、ロード、MTB、小径車をカバーしていて、少人数で運営可能な形態を今後も模索して行くもので、全国同時開催を可能にするひとつの方法です。それが地域の自転車愛好家や予備軍の交流を促進する呼び水になると確信しています。

つきましては、個人、クラブ、ショップ、NPO、メーカー、行政、協会を問わず、定期的にツーリングコンペティション・メニュー3点セットの何れかを実施していただける、運営チームを募集します。また、後援やその他様々な協力をこれまで同様お願い致します。

何卒、ご高配を賜り、ご理解、ご協力を重ねてお願い申し上げます。

自転車遊び総合研究会企画担当／石丸英明



メンバー紹介

2004年の年末に「実験企画」のアイデアを思い付き、個人の責任範囲で始めたものですが、発起人やコアメンバー、申込事務局担当、さらに心の師匠などは置いています。さらに、実際の運営に携わる運営チームや、興味を示して下さる関係者も現れていて、現在に至っています。

◆企画担当・・・石丸英明

自転車遊び総合研究会企画局(転遊研企画デスク)
〒740-0036 山口県岩国市藤生町1-30-6

◆申込事務局担当・・・宮本登志男

転遊研2008申込事務局
〒294-0008 神奈川県逗子市小坪3-5-7

◆ブルベ準備担当・・・リキュー

(仮称)和風自転車人認定の会準備室
〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町4-16

◆発起人・・・野畑清敬(愛知)、佐々山厚(群馬)、伊達純(広島)、吉野保(神奈川)、
飯島悠介(東京)、磯島純一(福岡)、森田宮子(兵庫)、吉野勝雄(島根)

◆コアメンバー・・・計67名(内訳/エリア)

参加者.....33名(東部日本12名/中部日本12名/西部日本9名)
スタッフ.....9名(東部日本 5名/中部日本 2名/西部日本2名)
輪界.....12名(東部日本 5名/中部日本 4名/西部日本3名)
媒体.....13名(東部日本11名/中部日本 1名/西部日本2名)
(東部日本33名/中部日本19名/西部日本16名)

※2007年のデータです。2008年の運営に向けコアメンバーの追加もあります。

